



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.96

「子どもたちを褒めてみよう」

保健福祉学部 社会保育学科 講師 奥村 香澄



子育ての中で、「褒める」と「叱る」を意識して使っているでしょうか？子育ての相談を受けるときに、程度はさまざまですが、友達を叩く、親に向かって暴言を吐く、一度で言うことを聞かないなど、大人にとって扱いにくい行動をどうしたら減らせられるか、とよく聞きます。その場合、全ての行動に対応できるわけはありませんが、まずは叱らずに、今できていることを褒めるのが大切です。叱るのではなく、子どもの問題行動を無視してください。子どもたちはずっと問題行動を起こしているわけではありません。

注目を与える「こと」によって、不適切な行動を減らし、適切な行動を増やすことができます。子どもに危険がないよう目の端に入れつつ、お母さんやお父さん、ときには学校の先生は、子どもの行動を見ないフリをします。もちろん度合により、危険な行動や許されない行動は、してはいけないと伝える必要があります。ことができると適切な行動が、できる限り叱るのをぐっと堪えて、適切な行動が起きるのを待ちます。適切な行動が起きたら、すかさず「ゲームを自分でやめることができる偉いね」などと具体的に適切な行動を拾いあげて褒めましょう。



ですが、場合によって、子どもの「もっと見てー」という気持ちが大きくなり、一時的に問題行動が増える場合もあります。実施が難しくてもあれば、医師や心理職に頼ることも必要です。ここで大切なことは、子どもの存在そのものをではなく、行動を無視すること、完璧ができたらではなく、25%ができた時点で褒めることです。これらの手法は、ADHDなどの発達障害児がいる保護者を対象としたトレーニングの一つですが、子育て全般に応用することができるといえます。

文字にすると簡単なように見えますが、適切なタイミングで「褒める」ことは案外難しいものです。「褒める」と言っても、「すごいね」「偉いね」と言葉で伝えること以外にも、子どもに微笑みかけたり、ハイタッチするといった褒め方もあります。大げさに褒められることを好まない子どももいるので、子ども一人ひとりに合わせた褒め方を知ることが大切です。



大学図書館へようこそ！

新型コロナウイルスの感染拡大が収束しないまま、12月を迎えました。今後の入試や、4年生の国家試験なども状況が心配されます。十分な対策を取り、無事遂行できるよう願っています。

【12月の開館について】

12月31日(木)から1月5日(火)まで休館です。

12月24日(木)以降は午後5時で閉館です。

学外の方は本の貸出・返却のみご利用できます。

◆問い合わせ
名寄市立大学図書館

01654@7671(直通)
ncu_library@nayoro.ac.jp



大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～



褒めることや子育てにあたって読んでおきたい図書を紹介します。

『自己肯定感の育て方 ほめる、叱る、言葉をかける』

今井 和子・波多野 ミキ・堀内 節子/著 ほんの木

『マンガでわかる 怒らない子育て』

安藤 俊介・長縄 史子/著 永岡書店

『子どもが変わる怒らない子育て』

嶋津 良智/著 フォレスト出版

『子どもの心の育てかた』

佐々木 正美/著 河出書房新社

→どの本も子育てを楽しみ、親子が幸せになれる極意がつまっています。